

2021年3月期 第3四半期 決算説明



エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社

1. 連結業績
2. セグメント別業績
3. 百貨店事業
4. 食品事業

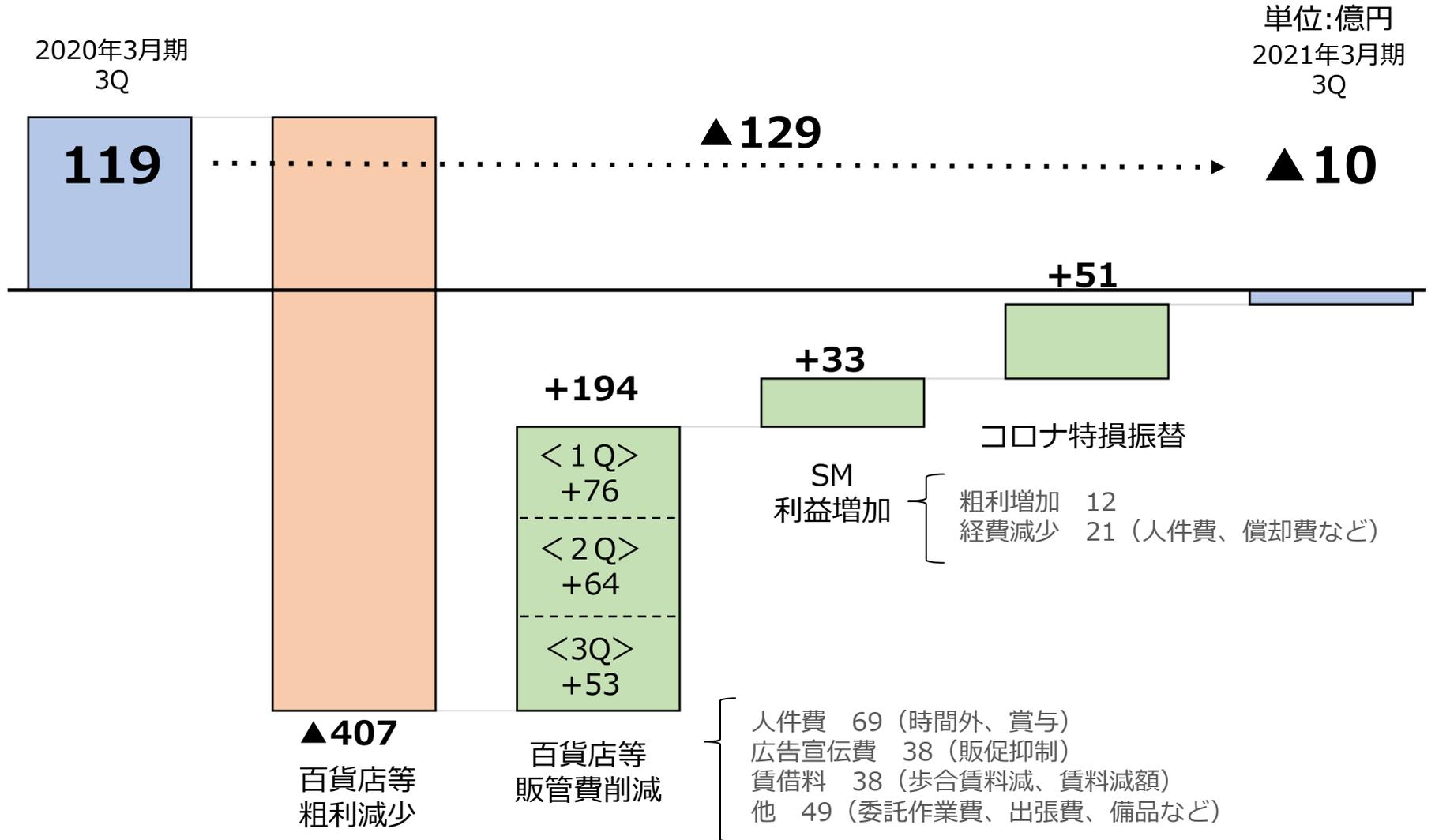
1. 連結業績

- ▶引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が継続するも、営業活動再開に伴い売上・利益ともに減少幅は縮小し、3Q単体では黒字化
- ▶ コロナ関連51億円、減損損失58億円など特別損失を計上

(単位：億円)	金額	金額			前年差	前年比
		1Q	2Q	3Q		
売上高	5,516	1,459	1,897	2,160	▲1,424	79.5%
営業利益	▲10	▲33 コロナ特損振替前 ▲82	▲11	34	▲129	—
経常利益	▲1	▲30	▲14	43	▲124	—
特別利益	30	0	24	6		
特別損失	128	52	62	13		
親会社株主に 帰属する四半期純利益	▲81	▲61	▲40	20	▲106	—

1. 連結業績—営業利益増減要因

▶ 百貨店中心に大幅粗利減も、食品スーパー（SM）の好調や販管費削減取り組みなどにより影響緩和



2. セグメント別業績

- ▶ 百貨店事業の売上高前年比は第2四半期に比べて回復し、3Q単体で黒字化
- ▶ 内食需要の高まりに伴い食品事業は引き続き堅調に推移
- ▶ イズミヤ分社化による食品事業・不動産事業への影響額
売上高 586億円、営業利益 ▲33億円

(単位：億円)	売上高		営業利益		
	金額	対前年	金額	対前年	
百貨店	2,527	▲1,179 68.2%	▲10	▲117	
食品	2,145	▲561 79.3%	45 SM 3社 48 (+66) 食品製造他 ▲3 (▲10)	+56	↓ 実質 +24
不動産	500	+439 810.9%	3	▲28	↓ 実質 +5
その他	343	▲123 73.7%	▲14	▲51	
連結調整			▲34	+11	
合計	5,516	▲1,424 79.5%	▲10	▲129	

3. 百貨店事業

- ▶ 第3四半期は、一時基調回復の兆しが見えるも、新型コロナウイルス感染症の第3波が客数押し下げ
- ▶ 広告宣伝費や人件費の抑制により経費削減
(コロナ特損による販管費減は43億円)

阪急阪神百貨店 + 神戸・高槻事業 (H2Oアセット)

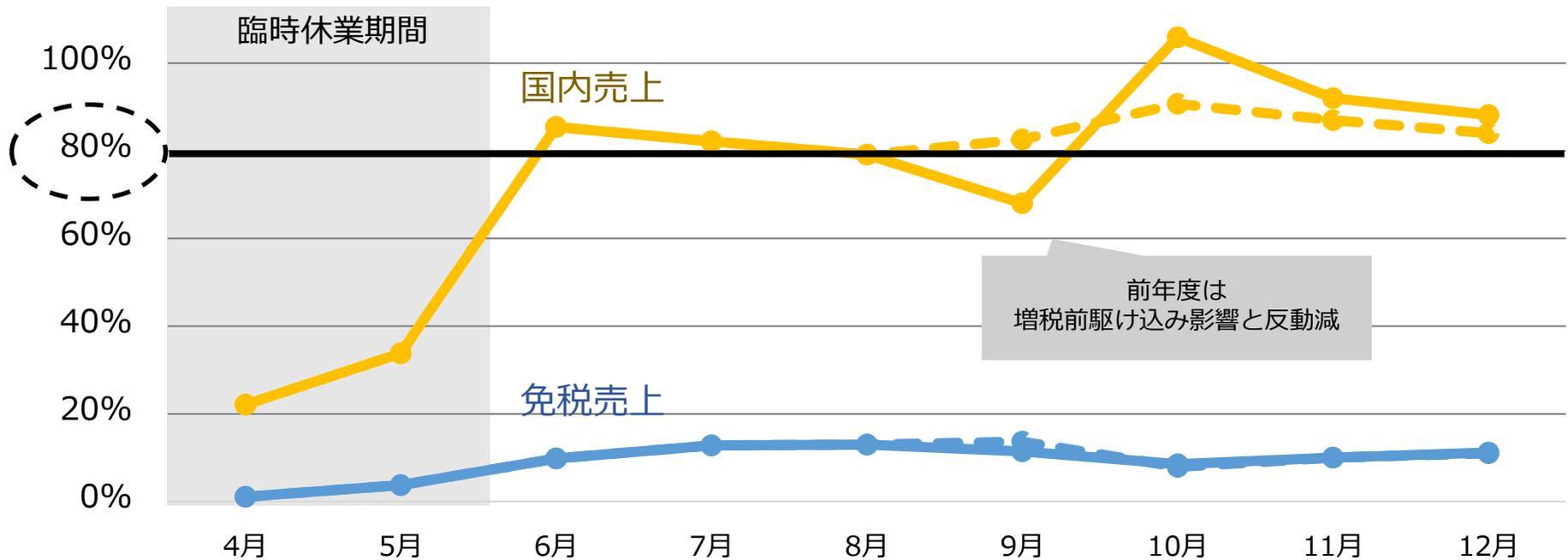
(単位：億円)	金額	金額			前年差	前年比
		1Q	2Q	3Q		
売上高	2,511	481	891	1,139	▲1,173	68.2%
売上総利益	578	110	203	265	▲300	66.4%
総利益率	23.02%	23.0%	22.8%	23.2%	▲0.80%	—
その他収入	22	5	8	8	▲4	83.3%
販管費	607	144	216	247	▲190	76.2%
営業利益	▲8	▲28	▲5	25	▲114	—

コロナ特損振替前
▲70

3. 百貨店事業

- ▶ 通期予想の前提である第3・4四半期の国内売上前々年比8割に対して、10-12月はやや上回って推移（下図黄色点線）するが、新型コロナ第3波とそれに続く緊急事態宣言発出など一進一退の状況
- ▶ 免税売上は前年比1割程度と大幅な減少が継続。

既存店の国内外売上高前年比・前々年比の推移
（実線：前年比、点線：前々年比）



4. 食品事業

▶ SM各社は構造改革の成果と内食需要の高まりが継続し、増益幅拡大

・イズミヤ：分社化影響除く実質の営業利益増加 13億円

- 売上増加等による利益増加 1億円
- 2019年度構造改革による人件費減 10.4億円
- 2019年度減損による償却費減 1.7億円

・オアシス：営業利益 18億円改善

- 売上増加等による利益増加 14億円
- 2019年度減損による償却費減 3.9億円

(単位：億円)	売上高およびその他収入		営業利益		
	金額	対前年 (既存店)	金額	対前年	
イズミヤ	1,014	▲603 62.7% うち分社化影響 (101.1%) ▲586	30	+46	-
阪急オアシス	845	+17 102.1% (101.3%)	17	+18	-



本資料に記載された情報については、資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。

万が一、この情報に基づいて被ったいかなる損害に関しても、当社及び情報提供者は一切の責任を負いませんので、ご承知おき下さい。

また、本資料の著作権は全て当社に帰属し、著作権法に定める私的利用の範囲を超えて無断で、複製・転載等することを禁じます。